

第4回 南九州水産海洋研究集会

「ブリ資源について考える ～資源研究と漁業の視点から～」(速報)
宍道弘敏(鹿児島水技セ), 亘 真吾(中央水研), 辻 俊宏(石川水総セ),
久野正博(三重水研), 渡慶次 力(宮崎水試)

平成28年10月25日(火), かがしま県民交流センターにおいて, 標記研究集会が一般社団法人水産海洋学会, 鹿児島県水産技術開発センター, 宮崎県水産試験場, 水産研究・教育機構中央水産研究所の共催で開催された。大学, 水研, 水試, 行政, 漁業者, 漁業関係者など約100名の参加があった。本研究集会では, ブリの資源変動, 産卵回遊, 稚魚の加入に関する最新の研究成果と, 近年のブリ資源に対する漁業者の捉え方及び経営戦略について, 研究者・漁業関係者間で情報共有・意見交換すると共に, 今後想定される環境変動とそれに伴うブリ資源の変動及び漁業の対応について展望し, 今後必要となる研究の方向性について議論することを目的に開催された。研究集会の進行状況を以下に示す。

一般社団法人水産海洋学会長・和田時夫の挨拶(代読:鹿児島水技セ・宍道弘敏), コンビナー代表からの趣旨説明のあと, 研究発表を行った。

基調講演では, 中央水研からブリの生態と近年の資源状況, 鹿児島水技セからブリの資源変動と環境変動の関係, 東町漁協職員からブリ養殖日本一の漁協としてのブリ養殖業戦略について紹介された。次に話題提供として, 富山水研及び三重水研から標識放流調査結果に基づくブリの移動回遊生態に関する知見, 石川水総セ及び東大大海研からシミュレーション実験結果に基づくモジャコの輸送に関する知見について報告があった。また漁業者の目線として, モジャコ漁業者及び定置網漁業者から, モジャコ及びブリの漁獲動向や, 近年のブリ資源に対する所感について報告があった。

総合討論では, まず各発表の内容を整理した。そのうえで, 今後想定される環境とブリ資源の変化及びそれに対する漁業者, 研究者の備え等について議論した。寒冷期に増加するマイワシ資源が北日本で増加している背景から, 水温が今後低下し, 温暖期に増加するブリ資源が減少に転じる可能性や, 南九州ではブリ産卵親魚の減少に伴いモジャコの来遊量が減少する一方, ブリの分布域が南偏するためにブリの漁獲量は増える可能性などが指摘された。一方参加者から, 水温の一時的な低下よりも, さらなる温暖化の進行こそ危惧されるべきではないか, との意見も出された。これを受け, IPCCの水温上昇シナリオをベースにしたシミュレーション結果から, モジャコが付随する流れ藻の主構成種であるアカモクの生育可能エリアの北上や, ブリの産卵可能エリアの北上が予想されるとする研究報告があることが紹介され, 今後, 水温環境と資源のさらなるモニタリングの強化, 漁業者への有益な情報の提供が重要であると総括された。

最後に, 鹿児島県水産技術開発センター所長・佐々木健介の挨拶で閉会した。

1. 基調講演

「ブリの生態と近年の資源状況」亘 真吾(中央水研)

「ブリの資源変動と環境変動の関係」宍道弘敏(鹿児島水技セ)

「“単独漁協日本一” 東町漁協におけるブリ養殖業戦略

～近年の天然ブリ資源変動を踏まえて～」松尾 斉(東町漁協)

2. 話題提供

「ブリの移動回遊生態(日本海側)」小塚 晃(富山水研)

「ブリの移動回遊生態(太平洋側)」久野正博(三重水研)・阪地英男(瀬戸内水研)

「日本海側へのモジャコの輸送」辻 俊宏(石川水総セ)

「太平洋側へのモジャコの輸送」水野紫津葉・小松輝久（東大大海研），宍道弘敏（鹿児島水技セ）

3. 漁業者の目線

「モジャコ漁業者からみた近年のブリ資源」長田昭二郎（南種子町漁協）

「定置網漁業者からみた近年のブリ資源」小村昌治（甑島漁協）

4. 総合討論

最後に、本研究集会の開催にあたりご協力頂いた講演者を含む多くの方にお礼申し上げますとともに、ご支援頂いた鹿児島県水産技術開発センター，宮崎県水産試験場，水産研究・教育機構中央水産研究所，一般社団法人水産海洋学会，ご後援頂いた鹿児島県かん水養魚協会，鹿児島県モジャコ生産漁協協議会，鹿児島県定置漁業者・漁協協議会に謝意を表する。

